

確かな読みの力を育む説明的文章の指導の工夫

～要点をまとめて文章構成を捉える活動を通して～

那覇市立宇栄原小学校教諭 下地 美喜子

〈研究の概要〉

本研究では、説明的文章の確かな読みの力を育むために、要点をまとめて文章構成を捉える活動を取り入れ指導実践を行った。その結果、教科書教材では、文章の大事な言葉（キーワード）を捉え内容の大体を読み取ることができた。また、他の説明的文章をリーフレットにする活動では、児童の関心・意欲が高まり、学習したことを活かして読み取ることができた。このように、要点をまとめて文章構成を捉える学習を積み重ねることは、確かな読みの力を育むことに有効であると考えられる。

〈研究のイメージ〉



〈研究の成果〉

- 文章を読み取る場において、要点をまとめて段落相互の関係を図表化することで、内容を正しく読むことができるようになってきた。
- リーフレット作りをする場において、要点をまとめ文章を組み立てて書くことで、確かな読みの力が育まれつつある。

目 次

I	テーマ設定の理由	45
II	研究目標	45
III	研究仮説	45
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	46
V	研究内容	46
1	「確かな読みの力」とは	
2	要点をまとめて文章構成を捉えるとは	
(1)	要点をまとめるには	
(2)	文章構成を捉えるには	
VI	授業実践（第3学年）	48
1	単元名「研究者になって，リーフレットを作ろう」（教材『どちらが生たまごでしょう』）	
2	単元目標	
3	指導計画【全8時間】	
4	検証1の学習【5／8時】	
(1)	目標	
(2)	授業仮説①	
(3)	展開	
5	検証2の学習【8／8時】	
(1)	目標	
(2)	授業仮説②	
(3)	主な学習活動	
VII	結果と考察	50
1	作業仮説1の検証	
2	作業仮説2の検証	
VIII	成果と課題	52
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献・引用文献》

確かな読みの力を育む説明的文章の指導の工夫 ～要点をまとめて文章構成を捉える活動を通して～

那覇市立宇栄原小学校教諭 下地 美喜子

I テーマ設定の理由

情報化・国際化などの社会の変化に伴い、必要な情報を適切に選択し活用する能力が求められている。小学校学習指導要領国語編では「各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることに資するよう、実生活の様々な場面における言語活動を具体的に内容に示す。」とある。「読むこと」は、国語の基礎であり他の教科においても必要な力である。よって、児童が日常生活を豊かにしていくためにも「確かな読みの力」を育むことは重要である。

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から、本校児童は「説明的文章を的確に読み取り、書くこと」に課題があることが分かった。また、本学級の児童アンケート結果からも、説明的文章の読み取りを苦手とし、「説明文は難しい」「考えることが苦手」と感じていることが分かった。これまでの説明的文章の実践を振り返ると、主語・述語の関係や問いと答えの表現に気を付けて読むことの学習を通して、書かれている内容の大体を読み取ることはできるようになってきた。しかし、初めての文章や長文を自力で読み取ることに個人差が見られたことから、説明的文章の学習において、自分で読み取って自分なりの表現でまとめるための支援が十分ではなかったと考える。

このような課題を改善するために、説明的文章の読み取り方と文章の構成を学ばせる。そして、その読み取りを活かして、他の説明的文章の要点をまとめ、リーフレットに書くことで主体的に読む楽しさを実感させたいと考える。よって本研究では、読み取り方の視点を具体的に示し、要点をまとめて文章構成を捉える活動を取り入れることで、児童に説明的な文章の確かな読みの力を育むことができると考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

説明的文章の学習において、確かな読みの力を育むために、要点をまとめて文章構成を捉える活動をさせ、その有効性を検証する。

III 研究仮説

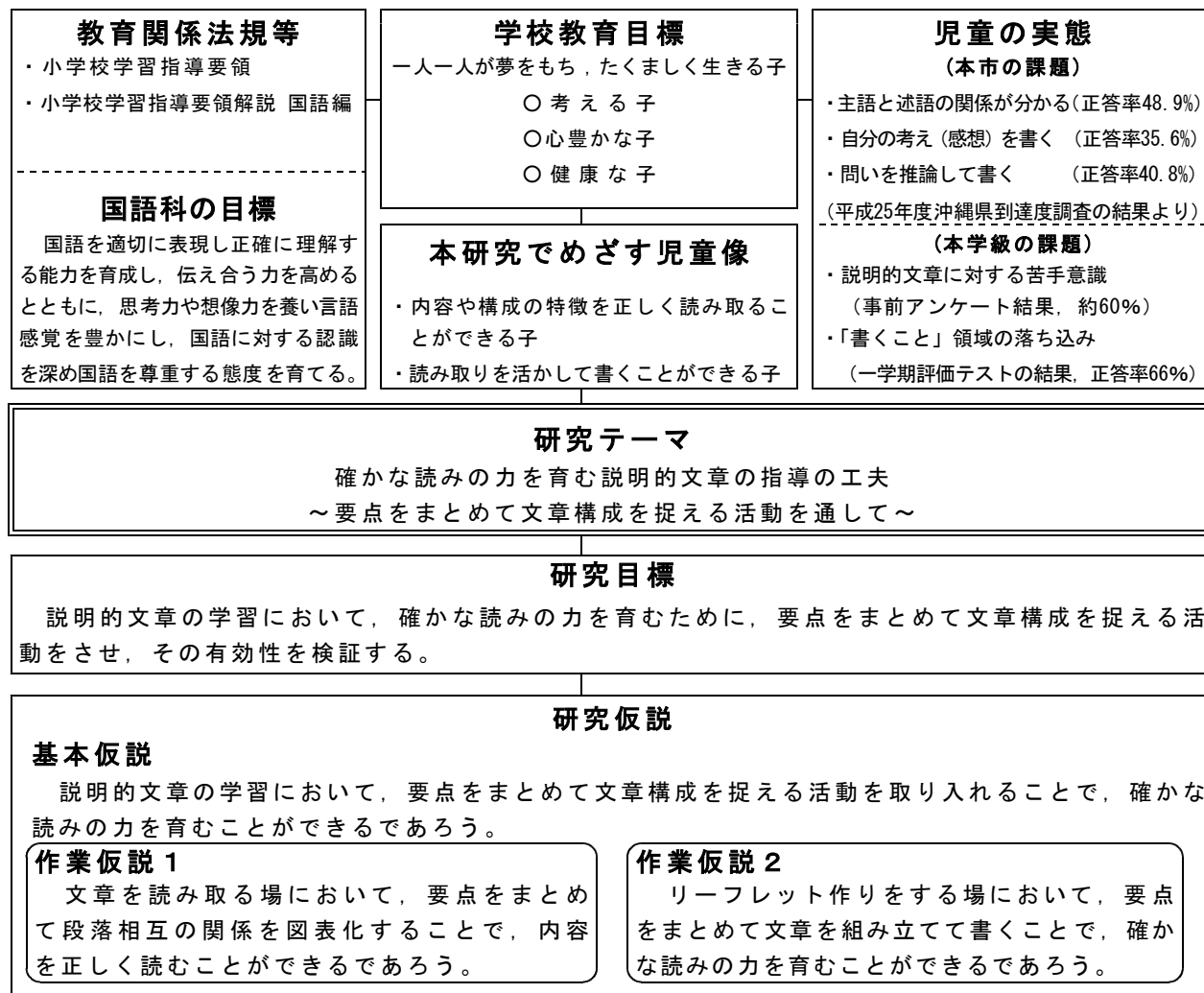
1 基本仮説

説明的文章の学習において、要点をまとめて文章構成を捉える活動を取り入れることで、確かな読みの力を育むことができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 文章を読み取る場において、要点をまとめて段落相互の関係を図表化することで、内容を正しく読むことができるであろう。
- (2) リーフレット作りをする場において、要点をまとめて文章を組み立てて書くことで、確かな読みの力を育むことができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 「確かな読みの力」とは

学習指導要領 第1章 総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」として基礎・基本を習得し、それを活用する力を育むことの必要性が述べられている。

そこで、本研究では、書かれている内容や構成の特徴を正しく読み取ることを「習得」、読み取ったことを書くことを「活用」とし、両方の力が往還しながら身に付く力を「確かな読みの力」と捉えた。(図1)。

小学校学習指導要領解説 国語編 第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の指導事項「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」を受けて、第3学年及び第4学年では「目的に応じ

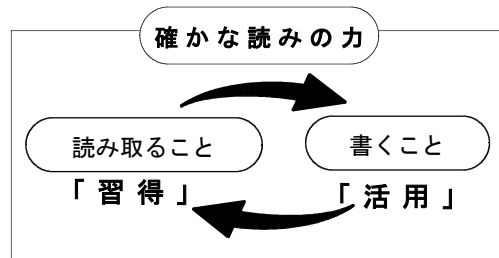


図1「確かな読みの力」のイメージ図

て、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」が示されている。そして、第5学年及び第6学年の「要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」へと繋がっていく。また、「B 書くこと」第3学年及び第4学年では、「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」とある。よって、「読むこと」の学習を支えるために、要約、図式化等の中心を明確にした書く活動を取り入れることで、文章を正確に捉え、内容を理解することに繋がると考える。

そこで、学習前半では、教材文「どちらが生たまごでしょう」の書かれている事柄を正しく読み取り、中心となる語や文、言葉を捉えられるようにしたい。そして、要点をまとめて文章の組み立てを考えさせ、内容を正しく読む力を育みたい。さらに、学習後半では、他の説明的文章を読み取り、学習したことを活かして要点をまとめリーフレットに書かせる。このように、「習得」と「活用」を関連づけた指導を工夫することで、児童に「確かな読みの力」を育むことができると考える。

2 要点をまとめて文章構成を捉えるとは

(1) 要点をまとめるには

小学校学習指導要領解説 国語編の「C 読むこと」第3学年及び第4学年【自分の考えの形成及び交流に関する指導事項】では、「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」が示されている。何が書かれているかを段落ごとに正しく読み取り、文章の構成を捉えるためにも、要点をまとめることは重要であると考え。

白石（2013）によると、要点とは「形式段落の中で筆者が述べようとしている主要な内容。形式段落内の重要な文や言葉を短い文にまとめたもの。」と述べている。第3学年は、「要点をまとめる」ことを初めて学ぶ学年であることから、何をどのように見つけ、まとめていくのかを具体的に示す必要がある。

白石（2008）は、要点をまとめる手順を「形式段落の中に、いくつかの文があるかを調べ、中心文となる大切な文を見つける。そして、短い文にまとめる。」と具体的に示している（表1）。

そこで、授業では、説明的文章の「用語」「接続語」「順序を表す言葉」をいつでも振り返ることができるように「学習の手引き①②」を児童一人一人に持たせる（図2）。そして、一人読みをしながら自力で要点をまとめていくことができるように「要点のまとめ方」を具体的に示す。初めに、文章全体を貫く語句や題名に関係する語句、繰り返し出てくる言葉を「キーワード」として見つけさせ、キーワードや大切な

表1 要点をまとめる手順（引用）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 いくつかの文で構成されている？
形式段落は、いくつかの文でできているのかを調べる。 2 中心となる大切な文を見つける。
「大切な文」は、何をもちて大切といえるのかを明確にする必要がある。
ここでは次のような視点でとらえさせていきたい。
・それぞれの文の役割を考えさせる。
・それぞれの文の中から、結論が述べられている文を見つける。
・形式段落内の主語と述語から見つける。
※中心となる文は、たいていの場合、一文を書き出すことができるのであるが、時として、二～三文に渡って取り出さなければならないときがある。
(時間的な流れを説明する場合や、段落内での指示語と指示内容を合わせて考えなければならないとき。) 3 短い文にまとめる。
抜き出した一文を短くまとめることで「要点」とする。さらに効果的な表現方法として次の2点をとらえさせたい。
・主語、述語、キーワードを見つけて文にする。
・文末を体言止めにする。 |
|---|

(説明文の用語をアスタリスクしよ)		学習の手引き①	
用語		表対訳	
① 古い文	「古い文」	「古い文」	① 旧暦序の文
② 古い文	「古い文」	「古い文」	② 序の文
③ 古い文	「古い文」	「古い文」	③ 序の文
④ 古い文	「古い文」	「古い文」	④ 序の文
⑤ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑤ 序の文
⑥ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑥ 序の文
⑦ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑦ 序の文
⑧ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑧ 序の文
⑨ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑨ 序の文
⑩ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑩ 序の文
⑪ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑪ 序の文
⑫ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑫ 序の文
⑬ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑬ 序の文
⑭ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑭ 序の文
⑮ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑮ 序の文
⑯ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑯ 序の文
⑰ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑰ 序の文
⑱ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑱ 序の文
⑲ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑲ 序の文
⑳ 古い文	「古い文」	「古い文」	⑳ 序の文
㉑ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉑ 序の文
㉒ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉒ 序の文
㉓ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉓ 序の文
㉔ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉔ 序の文
㉕ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉕ 序の文
㉖ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉖ 序の文
㉗ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉗ 序の文
㉘ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉘ 序の文
㉙ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉙ 序の文
㉚ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉚ 序の文
㉛ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉛ 序の文
㉜ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉜ 序の文
㉝ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉝ 序の文
㉞ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉞ 序の文
㉟ 古い文	「古い文」	「古い文」	㉟ 序の文
㊱ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊱ 序の文
㊲ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊲ 序の文
㊳ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊳ 序の文
㊴ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊴ 序の文
㊵ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊵ 序の文
㊶ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊶ 序の文
㊷ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊷ 序の文
㊸ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊸ 序の文
㊹ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊹ 序の文
㊺ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊺ 序の文
㊻ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊻ 序の文
㊼ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊼ 序の文
㊽ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊽ 序の文
㊾ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊾ 序の文
㊿ 古い文	「古い文」	「古い文」	㊿ 序の文

(2) 文章構成を捉えるには

『めだか』の文章組み立て表										
めだかのしりょうかい							①めだか の腹	②めだかの学校	はじめ	
							めだかの住居			
てきかに身を守る方法	第四に ③段落 まっぴきも集 まって泳ぐ (書き4)	第三に ③段落 せむい水はく びくびく水はく びくびく水はく (書き3)	第二に ③段落 くへくはく水 (書き2)	第一に ③段落 面をくぐって すくすく泳ぐ (書き1)	では ③段落 このようにて のから身をま かへる	③段落 きにおわれて いる	③段落 たぐさんのて	③段落	中①	
めだかの体の特別な仕組み							いっばう ③段落 海水のまぐる 川口の近くも たなられる	③段落 水柱が上がっ てたなられ	③段落 めだかの体の 特別な仕組み	中②
まとめ								③段落 いろいろな方 法でいきから身 を守り、自然の まひしりにたえ ながら生きてい る。	③段落 いろいろな方 法でいきから身 を守り、自然の まひしりにたえ ながら生きてい る。	終わ り

VI 授業実践（第3学年）

- 48 -

3 指導計画【全8時間】

次時	主な学習活動	学習環境（学習計画表・並行読書）
第一	(1) 学習計画を知り、単元の見通しを持つ。	
1	(2) 「どちらが生たまごでしょう」の範読を聞き、初発の感想を書く。	
2	(3) 形式段落と意味段落分けをする。	
4	(4) 要点のまとめ方を知り、①②段落の要点をまとめる。	
第二	(5) ③～⑦段落の要点をまとめ、図表化する。	
3	(6) ⑧～⑩段落の要点をまとめ、図表化する。(検証1)	
4	(7) ⑪～⑭段落の要点をまとめ、図表化する。	
5	(8) 筆者の述べたかった事を考える。	
第三	(9) リーフレットにまとめる方法を知り、各自、他の説明的文章の要点をまとめる。	
次	(10) まとめた要点をリーフレットに書き完成させる。	
8	(11) 作成したリーフレットを読み合う。(検証2)	

4 検証1の学習【5／8時】

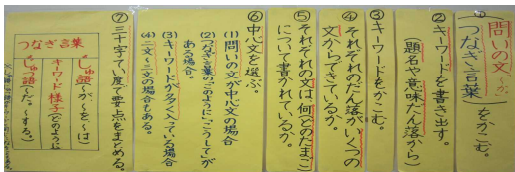
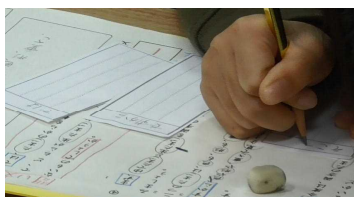
(1) 目標

キーワードを手がかりに要点をまとめ、接続語から段落相互の関係を読み取ることが出来る。

(2) 授業仮説①

文章を読み取る場において、キーワードを手がかりに中心文を選び要点をまとめて文章組み立て表に表すことで、内容を正しく読み取ることができるであろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
導入 3分	1 前時の振り返りをする。 2 本時の課題を知る。	○文章組み立て表「中①」の内容を想起させる。	
展開 32分	3 ⑧～⑩段落の音読をする。	○問い、キーワード、つなぎ言葉を見つけながら音読をさせる。	【読むこと】 〈概ね満足〉 友達の考えを聞いてキーワードと要点をまとめ、接続語をもとに文章組み立て表に表すことができた。
	4 要点のまとめ方を確認し、各自で要点をまとめる。	 〈支援を要する児童への手だて〉 主語・述語「何は（何が）、どうした。」にあてはめて考えさせる。	〈十分満足〉 キーワードを手がかりに要点をまとめ、接続語をもとに文章組み立て表に表すことができた。 (発言・ワークシート・文章組み立て表)
		5 まとめた要点について、全体やグループで話し合う。 6 要点カードを文章組み立て表に表す。	○全体でキーワードを確認後、大意が分かるかを話し合わせ、朱書きで追加・修正をさせる。 ○接続語に留意して文章組み立て表に貼らせる。
まとめ 10分	7 学習のまとめと振り返りをする。 8 次の学習内容を知る。 9 たまごの回り方の違いを実感する。	○接続語を手がかりに「中②」の小見出しを考えさせる。 ○文章組み立て表「終わり」を読み取ることを知らせ、見通しを持たせる。 ○グループで、たまごの回り方の違いを体験させる。	

5 検証2の学習【8／8時】

(1) 目標

キーワードを手がかりに、「問い」と「答え」のある段落の要点をまとめ、リーフレットに表すことができる。

(2) 授業仮説②

リーフレット作りをする場において、要点をまとめて文章を組み立てて書くことで、確かな読みの力を育むことができるであろう。

(3) 主な学習活動

- ① 他の説明的文章「森のスケーター やまね」「いるかのひみつ」「広い言葉せまい言葉」から1つを選択し、「問い」の文と対応する「答え」のある段落を見つけて要点をまとめる。
- ② 要点をリーフレットに書き、内容に合わせたイラストや写真を書き加える。
- ③ お互いのリーフレットを読み合い、工夫している点について相互評価をする。

VII 結果と考察

1 作業仮説1の検証

文章を読み取る場において、要点をまとめて段落相互の関係を図表化することで、内容を正しく読むことができるであろう。

図4は、本時のワークシートと要点カードを図表化したものである。児童はキーワードと問いの文から、各段落の中心文を見つけている。そして、キーワードを組み合わせる要点を短くまとめ、接続語「すると」「こうして」を手がかりにして図表化している。授業後、児童は「長い文章を短くまとめる時は、キーワードの大事な言葉を書くことが分かった。」「要点をまとめると、本当に大事な言葉が何か分かった。」と振り返っており、キーワードを手がかりとして要点をまとめていることが分かる。

図5は、学習後の児童の自己評価の結果である。「文章中から、キーワードを探すことができたと思いますか」との問いに、「そう思う」「まあまあ思う」と答えた児童は92%だった。キーワードとは「繰り返し出てくる言葉、題名に関係する言葉」と具体的に示したことで、児童は探しやすかったのではないかと考える。

次に、「要点をまとめることができるようになったと思いますか」との問いに81%の児童が「そう思

図4-1 児童のワークシート

図4-2 要点カード

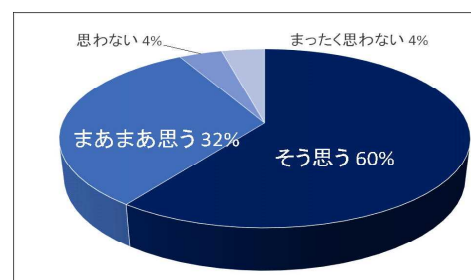


図5 「キーワードを探せたか」

う」「まあまあ思う」と答えている（図6）。これは、キーワードを基に中心文を探し、主語・述語とキーワードを使って、要点をまとめる書き方に慣れてきたからだと考えた。しかし、19%の児童は「要点をまとめることができなかった」と感じていることから、文章にまとめることができるように「書くこと」の学習と関連させた指導を継続し、正確な読み取りへとつなげることが大事だと考える。

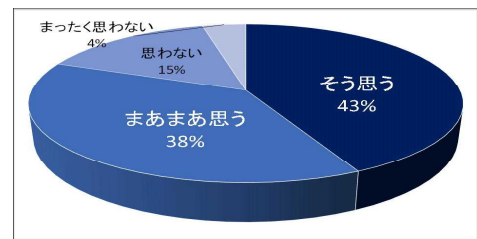


図6 「要点をまとめられたか」

図7では、「接続語を意識して文章組み立て表に表していたか」との問いに「そう思う」「まあまあ思う」と答えた児童は82%だった。このことから、全段落の要点をまとめた後の方が、文章全体の組み立てを考えることで、接続語の有用性を実感し、図表化できるのではないかと考えた。

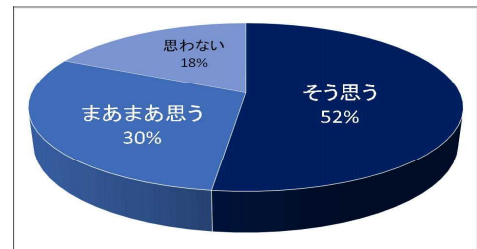


図7 「文章組み立て表に表せたか」

図8は、既習文章の要点の読み取りテストの結果である。検証前に行った「めだか」のレディネステストと検証後に行った「どちらが生たまごでしょう」を比較すると、検証後は26ポイント上がっている。

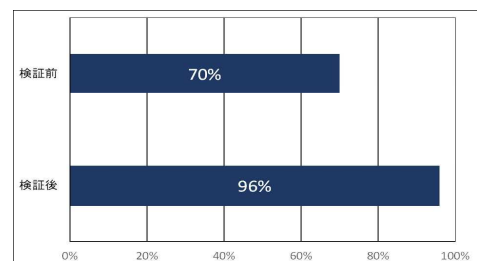


図8 要点の読み取りテストの正答率

このようなことから、要点をまとめ段落相互の関係を図表化することで、内容を正しく読むことができるようになってきたと捉えた。

2 作業仮説2の検証

リーフレット作りをする場において、要点をまとめ文章を組み立てて書くことで、確かな読みの力を育むことができるであろう。

図9は、児童Aの要点カードとリーフレットの記述である。教科書教材「どちらが生たまごでしょう」の読み取りでは、キーワードを用いて自力で要点をまとめている。しかし、同じキーワードを繰り返し使うなど1つの段落が二文になっていることが分かる（図9-1）。そこで再度、学習の手引き（図2）を基に要点のまとめ方を指導した結果、他の説明的文章「いるかのひみつ」の読み取りでは、キーワードをおさえ、文末表現を短くまとめることができた（図9-2）。さらに、リーフレットの文章は、3つの要点を組み立てて、指示語等を用いて1つの文章に書き表すことができた。

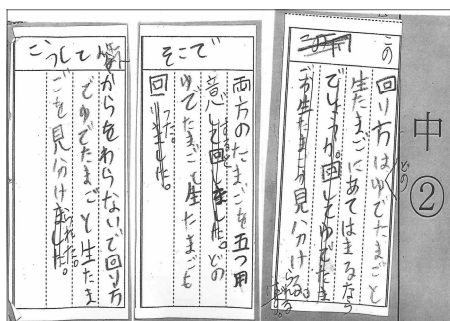


図9-1 「どちらが生たまごでしょう」の要点カード

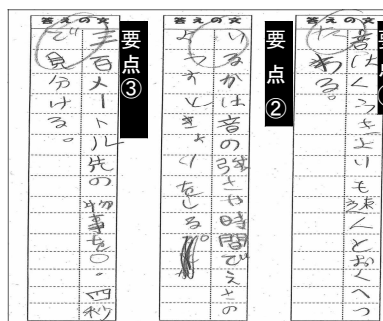


図9-2 「いるかのひみつ」の要点カード

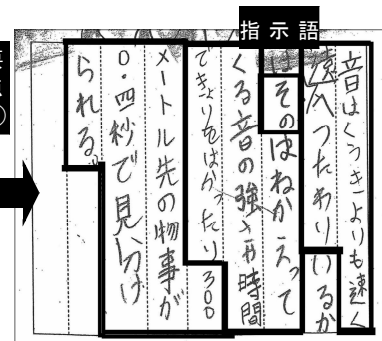


図9-3 「いるかのひみつ」のリーフレット

図10は、他の説明的文章「いるかのひみつ」の要点をまとめ、リーフレットの文章に組み立てたものである。2つの段落の要点のまとめを、接続語「だから」を使って1つの文章に表している。

段落の文	要点②	段落の文	要点①
1. この... 2. ... 3. ...	要点②	4. ... 5. ... 6. ...	要点①

図10-1 「いるかのひみつ」の要点カード

接続語	要点②	要点①
だから		

図10-2 「いるかのひみつ」のリーフレット

検証1と検証2で「要点をまとめられたか」を評価した結果、「十分満足」「概ね満足」の児童は79%であったのに対し、検証2では、支援を要する児童の割合が減少し、「十分満足」「概ね満足」の児童が97%と18ポイント上昇した（図11）。

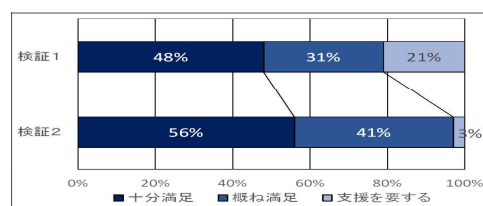


図11 要点をまとめられたか

また、リーフレットを作成後、児童は「キーワードを基に、必要な言葉と省く言葉を見分けながら読んだから、要点をまとめてリーフレットが作れた。」「要点のまとめ方が分かったので、一番苦手な説明文が少しずつ読めるようになってきた。」と振り返っている。これらのことから、要点をまとめることができつつあることが分かる。これは、学習を積み重ねるにつれ、キーワードの見つけ方や要点のまとめ方が分かってきたからだと捉えた。また、リーフレット作りに活用する他の説明的文章を各自で選択することで、児童の関心・意欲が高まり、目的を持って読むことができたのではないかと考えた。

このようなことから、リーフレット作りの場で要点をまとめ文章を組み立てて書くことは、確かな読みの力を育むことにつながると捉えた。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 文章を読み取る場において、要点をまとめて段落相互の関係を図表化することで、内容を正しく読むことができるようになってきた。
- (2) リーフレット作りをする場において、要点をまとめ文章を組み立てて書くことで、確かな読みの力が育まれつつある。

2 課題

- (1) 要点のまとめがうまくできない児童に、発問や教具などの工夫と継続指導が必要である。
- (2) 段落相互の関係を図表化する活動の学習計画への位置づけを工夫する必要がある。

《主な参考文献・引用文献》

- | | | | |
|-----------------------------------|-------|--------|------|
| 『小学校学習指導要領解説 国語編』 | 文部科学省 | 東洋館出版社 | 2008 |
| 『活用力を育てる説明文の授業-この教材をこの発問・板書で教える-』 | 白石範孝 | 東洋館出版社 | 2008 |
| 『板書でわかる国語 教科書◎教材の授業プラン 小学校3年』 | 白石範孝 | 東洋館出版社 | 2011 |